

令和7年度一般選抜 医学部看護学科【前期・小論文】

正解・回答例等（出題の意図を含む）

本問題は、医療や家族のあり方について考えを深めることを目的とし、読解力のみならず、思考力・判断力・表現力を問う内容となっている。がん患者とその家族の葛藤や選択を描いた本文を通じて、病気と向き合う家族の心理や、終末期医療の在り方について多角的に考察することが求められる。受験生には単なる知識の理解にとどまらず、病気や死と向き合う際の倫理的・心理的課題について深く考え、自らの意見を論理的に表現する力を判断したい意図がある。

問1

本設問は、本文の内容を正確に読み取り、要点を整理して説明する力を問うものである。特に、がん患者の子どもへの告知が単に病状の説明にとどまらず、心理的影響や家族の関係性に深く関わる問題であることを理解する必要がある。親として、どのように伝えるべきか悩む背景には、子どもの年齢や性格、治療による変化などが影響している点を整理し、論理的に説明することが求められる。

問2

本設問は、亜美さんの視点に立ち、彼女の思いや意図を的確に捉え、それを自分の言葉で表現することを求めるものである。「諦めたと思われたくない」という言葉には、母親としての責任感や、子どもたちの心に希望を残したいという願いが込められている。がん患者としての現実と向き合いながらも、家族にどのような影響を与えたいと考えていたのかを深く考察し、論理的かつ説得力のある文章を構成することが求められる。

問3

本設問は、本文の内容を踏まえつつ、がん患者の家族への看護について、自らの考えを論述する力を問うものである。特に、患者本人だけでなく、家族、子どもに対する精神的ケアの重要性を考察し、医療従事者がどのような支援を提供できるかについて具体的に述べることが求められる。家族が患者とどのように向き合い、最期の時間をどう過ごすべきかという倫理的な側面も含め、多角的な視点から自らの意見を論じる力が必要とされる。